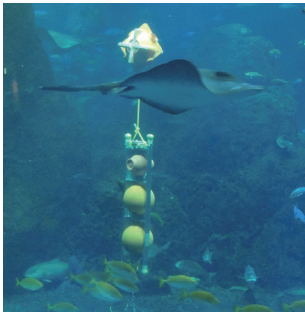


「江戸っ子1号」プロジェクトの軌跡

平成25年5月	杉野社長が、東京東信金の支店に技術相談として持ち込み。ひがしん「地域力連携拠点(当時)」が技術相談として受付。
6月	「地域力連携拠点」から東京海洋大学・芝浦工業大学へ相談案件として持ち込み。
8月	芝浦工業大学の紹介で海洋研究開発機構(JAMSTEC)を訪問。
12月	中小企業者20人によるJAMSTEC見学会(ラパン役員など)を実施。
平成22年11月	JAMSTECの助言により遠隔操作型からガラス球を用いた探査機に変更。
平成23年4月	「江戸っ子1号」プロジェクト推進委員会が発足。
5月	「江戸っ子1号」、特許を申請。
9月	JAMSTEC「実用化展開促進プログラム」に採択。
平成24年1月	コア企業4社・JAMSTEC・東京海洋大学・芝浦工業大学・東京東信用金庫、共同研究に調印。
3月	JAMSTEC(追浜)で水中撮影実験を開始。
6月	新江ノ島水族館「相模湾大水槽」で魚類撮影実験を開始。
9月	江ノ島沖での浅海実験を開始。
11月	「グローバル技術連携支援」助成に採択。
平成25年9月	横須賀港から「かいよう」にて出港するも台風20号による荒天のため実験を断念。
11月	JAMSTECの調査船「かいよう」からの房総沖200kmでの日本海溝約8000mへの投下・回収実験に成功。



安倍総理が江戸っ子1号の展示ブースを視察(東京・永田町、平成25年6月)



新江ノ島水族館での撮影実験



共同研究契約書の調印式(平成24年1月17日)



関東経済産業局 局長 安藤 久佳 氏

江戸っ子1号の実験成功、本当におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。本プロジェクトは正に産学官金連携のモデル的事業であり、関係者の皆様方の尽力に改めて敬意を表する次第です。一方、プロジェクトとしては、事業化を成し遂げて価値をもたらすことが重要な課題であり、未だ道半ばの状況と承知すると

ころです。今後、深海探査を実施する或いは実施を目指す様々な企業や団体のニーズに対応しカスタマイズを図るなどして、積極的に販路開拓いただくことを願っております。当局といたしましても引き続き平成26年度も補助金の交付等を通じてご支援させていただく所存でございます。プロトタイプである江戸っ子1号に続く2号、3号、4号が、関係者の皆様方のみならず、我が国の様々なセクターに価値と富をもたらし、産学官金連携の象徴的な成功事例となりますことを祈念いたします。

プロジェクト自体は、遅々として進展しなかった。だが、平成23年4月のプロジェクト推進委員会の発足をきっかけとして、特許申請、JAMSTEC「実用化展開促進プログラム」に採択されるなど実現に向けて一気に動き出した。

異業種の中小企業と大学等が協力するこのプロジェクトには東京東信金が当初から産学官連携のコーディネーター役として参画。信用金庫のネットワーク力の強さを示した。



江ノ島沖での浅海実験



販売総額は50億円。取扱期間は、平成26年1月6日～3月31日まで。

の先駆けとして、業界内外からプロジェクトに事務局として当初から参画し、そのコーディネート力を発揮。産学官「金」連携プロジェクトの理想モデルの先駆けとして、業界内外から

東京東信金

「江戸っ子1号応援定期」を発売

東京東信金(理事長・澁谷哲一氏)は、1月6日から「江戸っ子1号応援定期預金」の取り扱いを開始した。同金庫は、「江戸っ子1号」プロジェクトに事務局として当初から参画し、そのコーディネート力を発揮。産学官「金」連携プロジェクトの理想モデルの先駆けとして、業界内外から



実験後、堅い握手をするプロジェクトメンバー

左から東京東信金・桂川正巳コーディネーター、岡本硝子・高橋 弘氏、杉野ゴム化学工業所・杉野行雄氏、パール技研・小嶋大介氏、浜野製作所・浜野慶一氏

祝「江戸っ子1号」実験成功おめでとう!

ひがしん
ビジネスクラブオーロラ
会長 荻野 明

ひがしん
わいわい倶楽部
会長 岡本 郁雄

みのり商事株式会社
代表取締役社長 志村 泰雄
代表取締役社長 金坂 益宏

東武信用リース株式会社
代表取締役社長 安達 隆弘

プラス保証株式会社
代表取締役社長 原田 忠夫

システム運輸株式会社
代表取締役社長 山本 英造

信用メンテナンス株式会社
代表取締役社長 白倉 茂

ひがしん
若手経営者の会 ラパン
会長 菊地 智美

東武ビジネスサービス株式会社
代表取締役社長 木村 史明